



6 大学と大学図書館

著者	引原 隆士
内容記述	研修：平成30年度大学図書館職員長期研修 主催：筑波大学 期間：平成30年7月2日～7月13日 会場：筑波大学春日エリア情報メディアユニオン2 階情報メディアホール等
発行年	2018-07
URL	http://hdl.handle.net/2241/00153253

平成 30 年度大学図書館職員長期研修講義
「大学と大学図書館」

平成 30 年 7 月 3 日（於 筑波大学）

京都大学図書館機構長・附属図書館長
工学研究科電気工学専攻・教授
引原 隆士

1. 大学と図書館（概要）
 - ・世界における大学の創設と図書館の発祥
 - ・日本における大学の創設と図書館
 - ・学術情報と図書館の変化（過去・現在・未来）
2. 日本の大学をめぐる状況について（30 年の変化）
 - ・大学院重点化前後
 - ・国立大学法人化後
 - ・国立大学改革(2016)
 - ・社会構造の変化と国・大学の研究力低下問題
3. 大学図書館をめぐる状況について
 - ・電子ジャーナル・クライシス：資源が負債に
ビッグディールとパッケージ
研究者の評価と電子ジャーナル
APC のあり方
 - ・研究資源アーカイブ：大学の資産の活用
デジタル化の先へ（IIF による機関国際連携）
4. 図書館による教育支援・研究支援について
 - ・教育支援：アクティブ・ラーニング
からコモンズの設置（その可能性と課題）
 - ・研究支援：機関リポジトリ・アーカイブ（研究成果発信の課題）
 - ・オープンアクセス：戦略（負債を資源に）
arXiv → 投稿 → リポジトリ → オープンデータ

5. 国立大学図書館協会ビジョン 2020 について
 - ・位置づけ・意義・価値
 - ・大学図書館の今後の可能性
6. オープンデータ・オープンサイエンスへの道筋について
 - ・内閣府・「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」から
 - ・文科省・第9期学術情報委員会から
7. まとめ